

# 國學院大學学術情報リポジトリ「K-RAIN」

〔平成二十九年年度人間開発学部学部共同研究成果報告〕地域における子ども・子育て支援の実情と大学における人材育成のあり方

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 國學院大學人間開発学会 公開日: 2023-02-06 キーワード: 作成者: 野本, 茂夫, 池田, 行伸, 石川, 清明, 夏秋, 英房, 山瀬, 範子 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.57529/00001376">https://doi.org/10.57529/00001376</a>

〔平成二十九年度人間開発学部学部共同研究成果報告〕

# 地域における子ども・子育て支援の実情と 大学における人材育成のあり方

野本 茂夫 池田 行伸 石川 清明 夏秋 英房 山瀬 範子

## 【キーワード】

子育て支援 保護者支援 外国人の支援 孤立した子育て 人材育成

## I. 研究目的

本研究は、横浜たまプラーザキャンパス周辺地域を主な対象として、家庭で子育てをする未就園児の保護者の実情について情報を収集し、その実態を明らかにするとともに、大学における子ども・子育て支援の人材育成が地域と連携しながらどのように展開できるのかその具体的なあり方を検討することを目的とした。

## II. 研究方法

### 1. 地域の子育て支援調査

(1) 横浜市青葉区内の子育て支援拠点施設の調査と (2) 川崎市宮前区での子育て支援活動の調査を実施した。

### 2. 就園までの家庭での子育て状況

未就園児の保護者を対象に子育ての状況について、(1)保護者アンケート(2017年11月～12月)未就園児の保護者68名、(2)保護者インタビュー(2017年11月～12月)未就園児クラスの保護者22名。

### 3. 保育者養成における地域の保護者との連携

保護者2名を授業に招聘し子育て体験講話と学生(「教職実践演習」とその受講学生20名)との対話を実施(2017年12月21日3限目)、授業終了後に学生と保護者の感想を得た。

### 4. 本研究における倫理的配慮

本研究は、國學院大學「ヒト研究等及びヒト由来試料研究等に関する倫理委員会」の承認(ヒト研究・H29第8号)を得ている。

## III. 研究結果と考察

### 1. 地域の子育て支援の現状

#### (1) 青葉区内の地域子育て拠点施設の現状

施設長のインタビューからは、親の生活を作る力の不足、職場復帰の早期化と乳児期の親子へ

の支援が課題として挙げられた。また、利用者インタビューからは、育児の喜びや楽しさを感じながらも、病気や大人だけの外出などイレギュラーな事態に対しての支援を必要としていた。

## （2）川崎市宮前区での子育て支援活動の現状

転入出が多い若い世代への子育て支援の課題に対して、宮前区では未就学児のいる転入世帯への支援が民間主導で行われてきた。また、「外国人市民」への子育て支援について、外国人住民の実態に応じた手厚い子育て支援が必要であり、就学前教育が子どもの成長と学力獲得、社会参加に不可欠である。さらに就学後の学力補償の充実も急務である。

## 2. 就園までの家庭での子育て

### （1）未就園児の保護者アンケート

96%が核家族で、徒歩1時間以内に肉親がいるのは26%に過ぎなかった。保護者の切実な願いは一時預かり保育を増やして欲しいというものだった。0～2歳の間は母親中心に子育てするが、緊急の場合や子ども連れではできない用事がある場合は、一時的に預かって欲しい。また一日のほとんどを子どもとだけで過ごす社会からの疎外感を感じる。

### （2）未就園児の保護者インタビュー

共通した主な話題は、出産を機に転居し育児関連情報が不足、生後一ヶ月間は外出できずに話し相手がなく心理的不安定となる、ママ友や公園での交流は就園までは無い。必要な育児支援は、育児法や知識ではなく、短時間の子どもの預かりなど生活に密着した具体的で即応型の支援であった。

## 3. 保育者養成における地域の保護者との連携

保育者を目指す学生が家庭で子育て中の保護者に関わり、子育ての悩みや問題に触れた体験は、学生の保護者理解、家庭理解、保育者使命感の深化に影響を与えていた。そして、学生が子育てする保護者の悩みや思いを直接聞く体験は、これまでの想像を超えたところに保護者の姿があることを実感し、子育ての悩みや問題に対しての共感的理解が生まれてきていることが解った。

## IV. まとめ

たまプラーザ周辺地域の家庭での子育てには、外国人の子育てにも類似する困難さがあり、子育ての不安や悩みを共有できる身近な人がいない、気軽に利用できる施設が見つからないなど、この地域の家庭の子育てに共通する課題が浮かんできた。生活文化の異なる土地に移り住んで始める「アウェー育児」は、知り合いも情報もない孤立した子育てに陥り易いことを理解した支援が必要になる。

付記：本研究は、平成29年度國學院大學学部共同研究費の助成を受けた。

（のもとしげお 國學院大學人間開発学部子ども支援学科教授）

（いけだゆきのぶ 國學院大學人間開発学部子ども支援学科教授）

（いしかわきよあき 國學院大學人間開発学部子ども支援学科教授）

（なつあきひでふさ 國學院大學人間開発学部子ども支援学科教授）

（やませのりこ 國學院大學人間開発学部子ども支援学科准教授）